

若宮 功三 (P,Key) 兵庫県出身

デビット・サンボーン、ランディ・ブレッカー、スティーブ・ガット、マンハッタントランスファー、シーラ・レイチャールズ、ミンガスオーケストラなど、その他数々の全米を代表するミュージシャンとのアルバム制作。

国内では、阿川泰子、あおい輝彦、麻丘めぐみ、尾崎紀世彦、森口博子などなど、コンサートツアー、ピアノアレンジ、その他、上田正樹、五輪真弓、研ナオコ、TARAKO、門倉有希、小椋佳、ペドロ&カプリシャスなど、数々のアーティストの音楽活動をサポート。新人、ベテランを問わず数々のプロデュースやアルバム制作、演奏、ライブハウス、都内多々ホテルに出演する。

江上 友彦 (B) 神奈川県出身

幼少の頃からクラシックピアノを始め、高校時代にエレキベースに出会い大学入学後にジャズ研でウッドベースを始め演奏活動を始め。ベーシスト坂井紅介氏に師事。作曲家、アレンジャー、ピアニストとしての一面も持つ。2012年11月よりオリジナル曲だけのリーダーバンド『IMAGE←』の活動を開始。2018年7月に自身の2ndアルバム『Image of Sound』をリリース。オリジナルティに溢れた曲作りにも力を注いでいる。ジャズセッション、ポップスグループのサポート他、都内、横浜のライブハウス等で活動中。

吉田 和雄 (Dr,Cho) 埼玉県出身

子供のころから地元のまつりに親しみ、囃子を学ぶ。高校時代に「ボサノヴァ・ブーム」が到来、そのリズムに魅せられて大学在学中にドラムを学んだ。ブラジル音楽に傾倒した「Spick & Span」を結成、11枚のアルバムをリリース。プロデューサーとしては、ボサノヴァシンガーの小野リサを世に送り出し、南佳孝やブラジルのスター、ジョイス、カルロス・リラ等も手掛ける。まさにブラジルと日本の架け橋的存在で、71回の渡伯経験を持ち、昨年9月には日本人では初めて、ブルーノート・リオに出演。現在、「トキオ・ボッサ・トリオ」、「パンドラム」を主宰、いずれも新作アルバムを今年発表した。

越田 太郎丸 (G,Cho) 東京都出身

ボサノバとクラブミュージックを融合させたユニット『Prismatica』のギタリストとして1997年にCDデビューしベスト盤を含む7枚のアルバムをリリース。アントニオ・カルロス・ジョビン、トニーニョ・オルタ、ジョアン・ボスコ、などブラジルのアーティストから作曲、編曲、奏法の影響を受けブラジル音楽を軸に演奏活動を展開。辛島美登里、石丸幹二、葉加瀬太郎、Jazztronik、coba、など様々なアーティストのライブサポートやレコーディングに参加。『Prismatica』のほか『Bossa do Mago』『森』などのバンドにも参加し作曲・編曲を手掛ける。ピアニスト榊原大とのデュオ『男子二楽坊』やピアノソラ作品をピアノソラスタイルで演奏するタンゴバンド『TANGO OGNAT』は全国的にファンも多い。2018/6/20にガットギター独奏によるアルバム“Twenty Years”をリリース。

羽根渕 道広 (Sax,Fl) 東京都出身

中学時代、吹奏楽部でフルートを手にしバッチのフルートソナタなどを中心に6年間クラシックを独学する。明治大学入学後、同大学ジャズ研究会に入部。チャーリー・パーカーの演奏に衝撃を受け Alto Sax を始める。その後、ハンク・モブレイ、スタン・ゲッツ、ジョー・ロヴァーノなどの影響を受け Tenor Sax に転向。2003年、オリジナル曲を中心に自己のグループを結成。2004年、つくばビッグバンドコンテスト2004でYAMAHA賞最優秀ソリスト賞を受賞。2010年、馬場孝喜(ac.gt)とのDuo、“habanero”を結成。Jazz,Soul,R&B, Bossa, Brazilなどの幅広い音楽性とアコースティックな響きで聴く者を魅了する。世界的テナー奏者であるBob Mintzerも大絶賛した！その他、和田アキ子、谷村有美、宮本信子などのサポート、レコーディングで活動中。